

# 中学校音楽科において、感じ取ったよさや美しさを根拠をもって伝えられる生徒の育成

— 授業ごとに行う継続的な鑑賞活動を通して —

音楽班 諏訪部光昭（中学校教諭）

## 主題設定の理由

### 生徒の現状

音楽用語を知らない



何を聴くのか分からない

どのように書いたらいいの？

### 教師の願い

○鑑賞した曲について、知覚した要素や構造と、感じ取ったよさや美しさの両面について書くことができるようになってほしい。  
○題材として扱う鑑賞の授業時数が限られている中で、曲を聴いて知覚した要素や構造と、感じ取ったよさや美しさを関連付けるなど、根拠をもって伝えられるようになってほしい。

## 研究の概要

1 鑑賞活動を行うときに、共通事項の中から、特に指導内容に関連したものをキーワードとして示す。

音楽を形づくっている要素や構造などを知覚できるようになる。

継続的な鑑賞活動で使用したワークシート

今日この曲、音色、リズム、**旋律**、**強弱**、**場面**

特に意識させたい要素を強調する。

2 音楽を形づくっている要素や構造を知覚しながら鑑賞する。

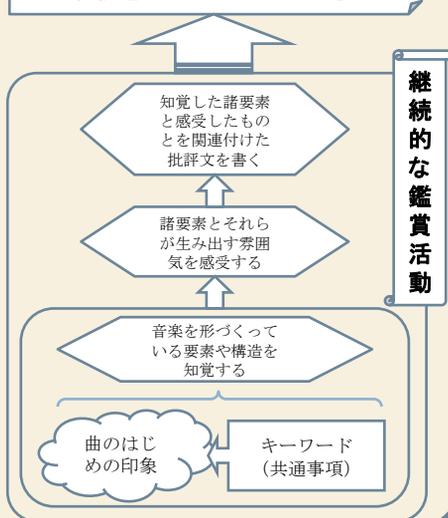
要素や構造の働きが生み出すよさや美しさを感じることができるようになる。

3 授業ごとに継続的に鑑賞活動を行い、批評文を書く活動を積み重ねる。

自分が感じ取ったよさや美しさを、音楽を形づくっている要素や構造などと関連付けるなど、根拠をもって伝えられるようになる。

今回「運命」の授業に向けて鑑賞した曲：①ベートーヴェン作曲「ヴァイオリン・ソナタ第5番」第1楽章、②モーツァルト作曲「フィガロの結婚」序曲、③スメタナ作曲「売られた花嫁」序曲

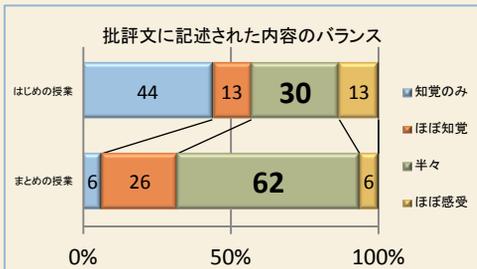
### 感じ取ったよさや美しさを根拠をもって伝えられる生徒



## 成果

○批評文の内容が充実し、知覚したことと感受したことを関連付けて書けるようになった。（研究の概要3について）

○知覚した要素や構造と、感受したよさや美しさの両面について書ける生徒が増えた。（研究の概要1と2について）



生徒A  
はじめの授業で書いた批評文  
「全体的にテンポが速い曲。」

まよめの授業で書いた批評文

「2回目の動機の時、暗くて忙しい感じがした。何度も動機が出てくるのは、それだけ強調したいのだと感じた。大きくなったり小さくなったりを何度も繰り返していた。ゆるやかになるとき、川が流れるようになめらかだった。ソロの時、すごく静かだった。」

生徒B  
はじめの授業で書いた批評文  
「最初はなめらかな旋律で、途中から場面が変わってスタッカートが多い、飛び跳ねる感じになっている。最初はバイオリンが主旋律だったが、後半に行くにつれてピアノとバイオリンの二つで旋律を奏でている。」

まよめの授業で書いた批評文

「同じメロディーを繰り返すことで記憶に残りやすくなる。思わずロザさむようなメロディー。慌ただしいメロディーからゆったりとしたメロディーに変えることで、聴いてる人の気持ちを落ち着かせる。そこから音の上がり方に興味を抱き、曲に入りやすくなる。似たようなメロディーでも、少し変えて演奏させることで、音の変化を楽しめる。何度聴いてもあきない楽曲になる。音の強弱の差を大きくすることで、聴いてる人の気持ちにも差を作ることができて、自分なりの場面を想像しやすくなる。最後のところに入る前に、曲を1回切って落ち着かせることで、最後のところのドキドキ感をより味わうことができる。終わった後の余韻が残る。」



## 課題

- 年間を通して継続できるように、指導計画の見直しと、短時間で鑑賞できる教材を選定すること。
- キーワードを強調しすぎると、知覚した要素や構造についての記述に偏りがちになること。
- 生徒の自由な発想を生かすことができるような発問の工夫をする必要があること。